

信仰の本質

へブライ人への手紙一章1-3節

信仰とは、望んでいる事柄の実質であって、見えないものを
確証するものです。(一)

絶望的な状況の中で、私たちがなおも信仰を捨てることなく生きられるのは、
望みを持ち続けているときです。信仰に生きるとは、目に見える現実だけを頼り
にするのではなく、目には見えない世界を確かなものとして確信して生きること
です。これは独りよがりの主観的な信念とは違います。その確かさは自分の中に
あるのではなく、外にあるものによって支えられている確かさです。そしてその
確かさはどこから来るのか。大祭司イエスからであると著者はひたすら語って来
ました。信仰者にとって、大祭司イエスの執り成しこそ、最も確かな現実です。
この目には見えないけれども、最も確かな現実に基を置くとき、私たちの信仰は
見えるところに揺るがされることはなくなりません。私たちも、大祭司イエスに信
仰の目を注ぎ続ける者たちでありたいと願います。